

## セッションⅡ-1、Ⅱ-2

高橋 俊 則

当セッションでは、下表の発表がなされた。

### Ⅱ-1 室内試験

論文 No.	口頭発表者	所 属 所	地区名	題 目
21	坂上 敏彦	川崎地質㈱	関 西	大阪湾岸粘土への定ひずみ速度圧密試験の適用
22	今田 尊徳	日本地研㈱	九 州	膨潤地盤の特性について
23	榎本 義一	北海道土質試験協同組合	北海道	軟岩三軸圧縮試験における供試体サイズの違いによる強度定数への影響
24	山田 真一	基礎地盤コンサルタンツ㈱	関 西	初期せん断力を受けた土の動的強度特性
25	西村 武吉	日本地研㈱	九 州	気泡ソイルセメントの特性

### Ⅱ-2 物理探査

論文 No.	口頭発表者	所 属 所	地区名	題 目
26	秦 二朗	川崎地質㈱	関 西	自然放射能探査の有効性 反射法地震探査による大阪市の深部地盤構造
27	末広 匡基	㈱阪神コンサルタンツ	関 西	反射法地震探査による大阪市の深部地盤構造
28	坂下 晋	応用地質㈱	関 東	電気探査（比抵抗映像法）の土木探査への適用
29	松木 宏彰	復建調査設計㈱	中 国	花崗岩地帯における地下水調査
30	宮本 元行	アジア航測㈱	関 東	遠隔手法による土質パラメーターの計測について

技術発表会に参加の機会を得た。そのうち2日目の室内試験と物理探査セッションについて二、三気付いた点について述べて見る。

室内試験は「体質変化」と「せん断強度」に関する発表が主体であった。その中で「定ひずみ速度圧密試験」は従来の標準圧密試験に比べて試験期間が短く、圧密降伏応力の決定に際して载荷荷重を細かく採ることが出来るなどの長所から、将来適用範囲の広い試験

方法ではないかと思われる。しかし、技術的に若干改善されなければならない点があると思う。例えば、ひずみ速度の変化が圧密降伏応力に与える影響、ひずみ速度の適用範囲などである。この点について標準化がなされたならば、沿岸地域の大規模な埋立工事、人工島の建設などの場合、試験期間が大幅に短縮され試験経費の低減につながるるとともに、技術的に早期沈下の予測への速やかな対応が可能となることから施工管理面への適用が容易となろう。

物理探査では断層破碎帯や基盤の深度など地質構造に関するものが主体であった。その中で「断層調査における放射能探査」は、厚い被覆層下に潜在する断層に対して有効な調査方法としているが、当方の経験でも必ずしも断層直上で高い放射能を示すとは限られていない。したがって、基礎的なデータを蓄積してボーリング調査などの原位置試験による確認が必要と思う。しかし、放射能探査による方法が確立されたならば作業能率や経済性の面から極めて有効な方法であると思われる。

今回の発表で取り扱われたテーマは多岐多様な試験および解析結果であった。土質試験結果を利用する立場からは、試験結果のみで地盤の評価を行う事のないことは当然ながら試料の採取状況・試験方法が適切であったかの総合的な検討も重要であることが再認識された。そして、ここでは省略するが、技術フォーラムに参加したことにより個々の発表された中に種々のヒントが込められていることを痛感した。内容のうち一つでも多く実際の業務に生かしてゆければ幸いと思っている。

最後に、本発表会参加の機会を与えられたことに感謝し、これを機に技術者の交流が深まることを期待したいと思います。

(株式会社社長内水源工業)

